

## 第2回 尼崎市立女性・勤労婦人センター運営委員会 会議録(要旨)

- 日 時 : 令和5年11月13日(月) 10時~12時
- 場 所 : 尼崎市立女性・勤労婦人センター 視聴覚室
- 出席者 : 委員8人 ◎: 会長、○: 副会長  
井餘田委員、奥野委員、◎武本委員、津久井委員  
仲渡委員、濱田委員、前川委員、○森屋委員  
事務局4人  
文化・人権担当部長、ダイバーシティ推進課長、  
ダイバーシティ推進課職員2人  
女性センター所長
- 関係所管 : 0課
- 傍 聴 : 2人
- 会議要旨

### 1 開 会

### 2 議 事

#### (1) 尼崎市立女性・勤労婦人センターの今後のあり方について

事務局 : ——資料に基づき説明——

委 員 : 資料には「2023年に公共施設再編計画に基づく集約化に向けて、複合化等を目指す施設として検討」とありますが、検討はどのように進んでいるのでしょうか。計画の具体的な内容と、今後のスケジュールや場所を知りたい。

事務局 : スケジュールは明確に決まっていない。それ以前に機能を整理する必要がある。場所はトレピエだけで決めるものではないので、他施設との兼ね合いがあり、まだ検討状態である。

委 員 : (ファシリティマネジメント推進担当が) 策定している「尼崎市公共施設再編計画基本方針」には「公共施設は市民サービスを提供する拠点であることから、取組を進めていくにあたっては、可能な限りサービス水準の低下をきたさないことも重要となります。」と書かれている。また、「バリアフリー化の他、新たな利用者の発掘や、複合化に伴う異なる施設利用者間での新たな交流の創出や市民活動の一層の促進など」とも書かれている。勤労婦人センターからそもそも男女共同参画センターという形へ拡充となると思うが、減免の考え方として福利厚生的な意味で当初は減免措置を行ったと思う。約50年前から女性の尊厳と人権を守り、女性が活躍できる街づくりは、女性のみならず、性的少数者、生きづらさを抱える人なども含めてみんなにとって生きやすい社会になると活動してき

たと思う。

今も女性が置かれている立場は、様々な分野で歴然とした格差がある。女性だからこそある格差をカバーするためにも、減免措置はぜひ継続していただきたい。文化活動を通じての出会いや交流、他者を理解することが女性の社会参加やジェンダーの気づきのきっかけとなる。文化活動への減免措置は、サービスの低下を避けるという意味でも検討してほしい。

委員：名称について、男女共同参画センターとすると男女2元論にひっかかってしまい、性別の移行途中や、Xジェンダーの方はトレピエを使うのをためらってしまう。愛称をもっと広く周知し、しかし女性センターが使いやすいように考える必要があると思う。また、性的マイノリティの方も使いやすいトイレの検討もしてほしい。

委員：名称について。もともと勤労婦人センターの名称を尼崎市が使っていたのは、尼崎市が最初に設立されたからか。トレピエ（という愛称）は定着しているのは分かる。トレピエという愛称は「三脚 (trepied)」1975年の国際婦人年のテーマの「平等・開発・平和」になぞらえているということだが、今後は女性、男性、マイノリティなどの新しい意味も考えられる。ジェンダーに限らず勤労やマイノリティなど差別的なことも考えてほしい。前向きにさらに推進するためにトレピエはこういう意味と説明していくことが大切である。トレピエは条例上書かれているのか。

事務局：トレピエは愛称なので条例には出てこない。条例は尼崎市立女性・勤労婦人センターである。また、勤労婦人センターの名前が尼崎市に残っていたというのは、「勤労婦人青少年福祉施設整備費補助金」を使って建てられたことに起因しており、補助金は50年で償還していく。50年以内に名称や設置目的を変更となると、補助金を返還しないといけないということで、「勤労婦人」が名称に残った。愛称は県だったら兵庫県立男女共同参画センター・イーブン、伊丹だったらここいろいろなどで、本市では市民公募によってつけられた。

委員：愛称や通称となると軽く扱われると思うが、30年の歴史を考えると、トレピエが名称として重く扱われるとよいのではないか。条例に書くという意味ではなく。名称が変わることで、男女共同参画施策が後退するのではないかという懸念に対してアピールにもなる。

委員：阪神尼崎にハローワークが、阪急塚口にマザーズコーナーがある。マザーズコーナーなどの職員が月に何回かトレピエに出張相談をしている。そのあり方や回数を増やすといったこと（拡充）が必要ならハローワークでも対応したい。トレピエのギャラリーに求人票を冊子や張り出しているが、1週間前に張り出した内容だと（求人が）終わっている可能性もある。そこを考え直さないといけないと考えている。ハローワークの求人はスマホで見ることができるが、だからとい

って展示をやめるかというとなかなかそうはいかない。スマホは文字が小さいし、そういったことも含めて考えていけないと思う。

施設の再編について、何年にどこの施設を合併するなど出せる情報は出してほしい。私たちは国の機関であるので、連携できるものは連携したい。

委員：名称について、男性側からの意見として、男女共同参画センターとなっているが、そうはなっていないところが多い。他市の意識調査では、男女共同参画の言葉の認知度が男性の方が10ポイントほど高いということがあった。男女共同参画という言葉は知っているが、男女共同参画センターには来ない。男性向け講座は集客は難しい。私に他市で男性にとっての男女共同参画を、職員向けに動画作成の依頼があった。男女共同参画センターは女性向け、女性活躍、という意識がある。男女共同参画に名称を変更しても、男性にとってそれでよいのかというのがあった。トレピエという名称を使い続けるのであれば（施設の）目的を考えていかないと、名称変更だけで簡単にできるものではないと思う。

委員：女性への減免措置について（継続してほしい）という意見について、分からないわけではないが、男女共同参画センターにする、ジェンダー平等センターにするなどすると、設置目的の減免を考えたときに、慎重に考えないといけないと思う。女性だけがヨガをする、裁縫をするというのと、男性がするというので、どこが違うのか。減免は税金を使うので、慎重に考えないといけない。現行はどうなっているのか。

女性センター所長：男女共同参画を学ぶグループ、女性が参加者の8割であれば5割減免している。通常は減免のない企業でも男女共同参画に関する研修例えば、女性活躍やセクハラ研修などを行う際は5割減面になる。

委員：どこのセンターも線引きは難しい。線引きは慎重にしていけないと思う。また、名称についても必ずしも男女共同参画にしなくても先進的なものにしてもよいと思う。尼崎市公共施設再編計画について、機能をいくら言っても、現実的にはハード面にかなり左右されると思うので、ハード面を言える仕組みがあってもよいと思う。伊丹市の男女共同参画センターはコンパクトだが、この面積でトレピエが果たす機能を担えるとは思えない。

委員：日中にここにアクセスできる人がイメージできない。皆が働く社会になるのに中で、平日昼間にここを利用できるのか。施設があっても平日昼間に利用できる人数が日本中で減ってきて、情報化によりリアルに対面というのが減っていつているなかで、施設はどうしていったらよいか。この環境にアクセスできない人を例えば仕事を探している人などターゲットにすることも考えられる。

委員：ハローワークの求人票について、企業ではサイネージで表示されることがある。サイネージでは画面タッチででき、検索も同時にできてやりやすいと思う。スマホを使い慣れているなら画面が大きいというのも相まって効果的ではないかと

思う。

減免について、女性割合といわれると、自分は女性なのか、という方が（性的マイノリティには）多い。そういった時の扱いをどうしたらよいかという日常生活の意図しない困難があることを知ってほしい。

委員：川西市は男女共同参画センターと市民活動（の施設）が一緒になっている。いろいろな（目的の施設が）一緒になると不明確になってくる。

事務局：川西市は市民コミュニティと男女共同参画が一緒であり、三田市は同じ施設内にさらに複数の機能、所管課が入っている。（7市1町では）他はない。

委員：昼間の利用率が少ないことについて。トレピエは土日も開館している。夜も開いている。昼間に例えば何か研修や講習をした時に youtube 配信した動画をアーカイブとして配信したら、自宅から見ることができる。

敷居を低くすることについて、食は敷居が低い。トレピエも以前カフェがあったが、そこに立ち寄りたり交流したり、多くの地域で子ども食堂があるように、若年層支援として若年者の自主運営としてできたら、交流が幅広くできると思う。

委員：例えば法律相談なら、土・日曜日、平日夜の時間帯とか、働く方に配慮した時間帯になっている。ただ職員も大変だと思う。かなりトレピエも配慮していると思う。

求人票の内容が古くなってしまふことについて、ペーパーにQRコードを付け、QRコードにアクセスしたら今の情報に到達しやすくするという案もある。スマホを使える方にはリアルタイムに情報を届ける。

最近男女共同参画という名称は、弁護士会でも「両性の平等に関する委員会」から「ジェンダー平等委員会」などになっている。人権はこっちを立てるとこっちが立たないというのがある。女性を立てたら男性が、男女共同参画という性的マイノリティが立たず、難しい。例えば、寄り添うセンターなど、生きづらさを抱えている方に配慮したセンターにできたらと思う。難しい時代だと思う。私は女性のDV被害者の代理人をすることが多い。女性のDV被害者は男性と同じ部屋に入るのがダメという方もいる。オープンなところと、クローズなところを、時間帯や建物の構造でできたらよいと思う。伊丹の施設について、新施設は交通の便がとてもよいが、前は新伊丹から歩いて行って、運動場に併設されていた建物だった。そこにはそこをめぐっていく人しか来なかったので、DV被害者は人に見られずに行けた。そこに子どもの遊び場や習い事も併設されていたので、そこに行くように見せかけて相談に行くことができた。オープンスペースな部分と心に傷を負った人が誰にも見られずに行けるというクローズなスペースを時間帯など出入りなどで配慮していただけたらと思う。芦屋は嚴重でカードをかざさないと入れない。DV夫が来ても別の出口から逃げられるようになっている。セキュリティを嚴重にしている。

- 委員：人数が多くなると周りを気にして意識しなければならない。建物の構造に防音を配慮してもらえるとありがたい。トイレについてトランスジェンダーでカミングアウトできていない方はどちらの性別に入っているか分かりにくい構造もあり、TOTOも図面の案を出しているの参考にしてほしい。みんなのトイレや誰でもトイレなど、女性センターの名称の問題はトイレの問題も似ていると感じた。
- 委員：尼崎市はダイバーシティ推進課があり、池田市はダイバーシティ推進条例がある。先取る市としてダイバーシティという候補はあるのか。ダイバーシティという名称は認知度がある。
- 事務局：ダイバーシティは多様性となり広い意味となるので、どういった機能をもたせるのかということが重要となる。ジェンダー平等との兼ね合いが難しいと思う。
- 委員：ダイバーシティは「多様性」となるので、多様性をいかしつつも考え方としてはインクルージョンが良いと思う。
- 女性センター所長：ハードとソフトについて。貸館機能をつけるかつかないか、単独か複合かなどが考えられる。貸館機能があるかないかで大きく異なる。貸館機能で来たついでにギャラリー展示やブックフェアも来てもらえるなど啓発効果もある。ソフトだけのワンフロアになるとどれだけの人が足を運んでももらえるかというのがある。
- 委員：一般の会議室は考慮されていないことが多いが、トレピエはジェンダーに関わる目的で安心して参加できる場所である。貸館機能は大事だと思う。
- 委員：貸館機能が無くなっている男女共同参画センターが増えているのか。
- 事務局：資料に載せている兵庫県以外は貸館機能がある。
- 委員：貸館機能がないセンターがイメージできない。他自治体で、子どもを連れて行ってはダメといわれる施設がある。
- 事務局：昔は公共施設も多かったが、今後は集約化が進んでいくことが想定される。
- 委員：承知した。集約化されてもかわりに（どこか近くにある）というのであればそれはそれでよいと思う。
- 委員：トレピエは稼働率が高いと思う。他を統合するのであれば分かる。
- 委員：まず貸室を探して、来たらこんなことをやっていると分かることもある。
- 委員：現在、貸室は誰でも使えるのか。
- 女性センター所長：営利目的や宗教上の目的などを除き、基本的に誰でも借りれる。
- 委員：ジェンダーに関することを目的とする利用以外のあらゆることを目的とした利用まで当センターが請け負うことはないと思う。
- 事務局：現在の目的のレクリエーションなど福祉増進の部分について今後どのように考えていくのか。設置目的を考えていかないといけないと思う。
- 委員：他の目的で利用できる施設があるなら、そちらで利用するということになる。ト

レピエがジェンダーに関連する目的での利用と限定するのであれば、こちらを使っていただくとならざるを得ない。

委員：トレピエの貸室に来たことがきっかけで男女共同参画に興味を持つきっかけとなったという統計をとるのは難しいと思うが、個別の声をとることはできると思う。

事務局：アンケート項目に加えることは今後考えられる。

委員：利用して男女共同参画に興味を持ってというならやる意味があると思う。駅近だけの理由だけだともったいないと思った。きっかけとなるなら、最初はそれでよいと思うが。

委員：貸室などで利用した方に男女共同参画を知ってもらうきっかけになる。最初から間口を狭くしてしまうと広げることは難しいと思う。

委員：トレピエは女性センターとしては老舗。日本でも早くから女性が集まって盛り上げていった。複合施設になっても、今まで積み重ねてきた良い面を残すようにしてほしい。伝統があると分かるようなセンターにしていきたい。

事務局：先ほどの意見で、働く方が増える中で、トレピエにアクセスできない人、例えば仕事を探している人に向けた就労支援など何か新たに強化すべき点があるか。これまでアクセスできておらず、また、講演会をしても集客が難しい男性への施策など今後考えていく必要があると考えている。

## (2) その他

事務局：今年度について、次回3回目の会議を3月頃開催と見込んでいる。

以上